

## 師を持ち 医者と弁護士を味方に

(メンター)

私の事業も本年で創立 45 周年を迎えております。そうしたなかに思うことは、ものごとには必ずや「起承転結」がついてまわると云うことです。

自分のことも踏まえてみても、起業時は自分の信じる道を実現するための人生の大きなカケであったはずですが、若さや未熟さからかも知れませんが、夢と希望だけでガムシヤラに突き進んで来たことでした。

その後、紆余曲折があり、当然のように大きな試練の毎日が続きました。現実に冷水をあびせられ、あげき苦しみ悲感の内に夜も眠れぬこともたびたびでした。

いつの時代も中小企業経営者としての自覚は「自己責任」「自助努力」だと痛感しつつ、それらの難局をひとつひとつ克服して来ました。

こうして一步一步の前進に心がけている内に、人には運もツキも味方することも知りました。他方、どんなに誠実にビジネスでも、個人の関係でも、自らが接して対応して来たとしても、それがすべからく正しく受け入れられないことも痛感させられたことは枚挙にいとまがありません。

“類は友をよぶ”の例えで、中小企業経営者の友だちも多く出来ました。特に自分が地方から上京し、東京で起業したことの意味あい、地方出身者の仲間とは特に親しく定期的に会食の席を設けました。自分の脇が甘いと他の友人に批判されたことですが、その仲間の一人が事業経営上、大きなダメージとなったトラブルを起し、私は巻き込まれました。

事業も長く継続して来ますと、祖業である事業も展開を求められ、様々なことがらに挑戦してまいりました。

そのなかには、多少とも成果を得られたもの、ほとんど資金を散じただけのもの、スタートさせて“やれやれ、これから”と云う時にリーダーに任じた人の闘病生活など、これも多くの経験を積み重ねてまいりました。これらで学んだことは、ものごとはなにごととも頭で描いた計画通りにはいかないものだと云うことでした。

自分でも沢山なことに挑戦して来て、大いなる失敗を実体験の知恵として云えることは

1. 「無知はリスク」だと云うことです。何か新たなことのスタートまたは経営上の難問に行き当たったとき、よき指導者（メンター）のアドバイスの導びきを求めることの大切さは第一義です。

2. 「ことを成すには10年はかかる」ことも認識しています。

ここで伝えたいことは、良き結果は経営者の執念の如く、断え間ない持久力の先にあるものです。安易な取組みは余程のことがない限りしないこと。矢張り他の方の様子を見ても、ことを成すにはどうしても時間がかかります。この間、自分の健康を損なっては元も子もないわけです。

自分の体調のなにかの折に、親身になってくれるお医者さんは心強い味方です。

3. 「事業は闘いだ」との思いは今でも深いものがあります。

いつなんどきトラブルが発生した折に、大いなる経験と、明確な良き解決への道筋を示してくれる、商事弁護士は必須です。

それがなければ、いたずらに時間と費用を散じて途方に暮れることになるわけです。

事業は闘いだから敵がいるのは当然で、その闘いに負けてはならないのです。

これらの3つのポイントに気がつき、大いなる反省も含め、当「起業アドバイザー便り」に記するまでには、相当の歳月が過ぎてまいりました。他人の経験と知恵を学ぶことを喜び機会とする人こそ、失敗を避ける賢者の考えだと思っております。

来月が最終の120号です。

10ヵ年継続してまいりましたので、次号で一区切りと致させていただきます。